

# 最優秀賞

## 平和な世の中へ

茨川市立長尾小学校6年 宮下 陽花

私は、一学期に学校で平和学習を行いました。東京大空襲についての紙しばいを聞き、先生方のお話を聞き、みんなで「平和ってどんなことだろう。」と考えを出し合いました。その時、自分の中で考えがまとまらなかったため、改めてこの夏休みに「平和」について考えてみることにしました。

私のひいおばあちゃんは、現在九十六歳です。今も元気に生活をしています。この夏に戦争の体験について聞いてみました。まだその当時のことが鮮明に頭の中に残っているようで、きびしい顔をしながら体験を話してくれました。ひいおばあちゃんは、東京で学校に通っていたので、東京大空襲にあいました。焼夷弾が落とされないよう、堀の中に息を潜めてじっと隠れている時はとても恐ろしかったそうです。焼夷弾が落とされると、辺り一面が焼け野原となり、火の海で土がぶくぶくとしていて、下駄を履いて必死に逃げたそうです。知り合いや仲間、多くの人の命が失われたようです。「戦争は怖い。絶対に忘れてはいけないんだよ。」と言っていたのが印象的で、私はとても胸が苦しくなりました。

私のひいおじいちゃんは、生きていれば九十九歳ですが、昨年五月に亡くなりました。それまでは元気に生活していました。終戦後、シベリア抑留として、シベリアの地で三年生活をしていました。極寒、餓え、感染症のまんえんなど、とてもひどい生活をしていて、亡くなる人や、自殺する人もいたそうです。ひいおじいちゃんは、体が弱かったので、生きて日本に帰ってくるのができたそうです。よく「あのきびしい生活のことを思うと、今は平和に暮らせてうれしい。あんな思いを他の人にはさせたくない。」そうに言っていたと母から聞きました。その話を聞き、昔の人は強い心をもっていたんだなと思いました。終戦後も苦しんでいた人がたくさんいたと思うと、また胸が苦しくなりました。

七十九年前の東京大空襲では、およそ十一万人の人の命が失われ町も吹き飛びました。一生懸命に生きてきた人の命を奪ってしまう戦争がとても恐ろしい、なぜ戦争しなければならなかったのか不思議でたまりません。教科書を調べていくと、日本は資源を得るために東南アジアに進出し、やがて太平洋戦争に突入したとありました。自分達の得や利益だけを考えていたのでしょうか。意見が合わなかった時、話し合いでなんとかならなかったのか、相手の立場に立って考えられなかったのかと思います、失われた多くの人の命のことを考えると、やはり戦争を二度と起こしてはいけないと思いました。

平和な世の中にしていくには、まず戦争のことを知り、そのことを受け継いでいかなければならないと思います。それがまずは「平和」の第一歩であると考えます。また、もう一つは、相手の立場に立って考えていく人々の意識も大切だと思います。私も相手と考えが合わなかったとき、相手の立場に立って物事が考えられるよう努力したいです。平和学習の講師の先生が言った「人生を大切にしていきましょう。」という言葉の思い出しました。人生まだまだ長く、楽しいことつらいこともあるけれど、人生を大切にしたいと思います。それぞれの人の人生が豊かになるよう平和な世の中をつくりあげていければと思いました。

# 優秀賞

## 平和の大切さ

澁川市立金島小学校6年 太田 瑠花

今、私達が生きている時代の日本は、色々なところにきれいな風景が広がっています。けれど、平和がなくてはそのきれいな風景を見ることは出来ません。平和とは、戦争や紛争が無く、世の中がおだやかな状態であることを意味します。私は、「平和」と言うことが、どれだけ自分にとって必要なものかを感じながら過ごしています。

まず、戦争は人々にどのようなえいきょうをおよぼすのかを考えてみました。戦争が起こってしまったら、沢山の人が悲しみ、命を落としてしまいます。そして、学校や家がこわされてしまいます。もしかしたら、家族や友人まで、失ってしまうかもしれません。このようなことが起きてしまうと、私達は悲しみにつつまれて、みんなで幸せに過ごすことが出来なくなってしまいます。

さらに、私はみんなと勉強したり、遊んだり、スポーツしたり、時にはけんかをするこゝとだってあるけれど、そのようなこともふくめ、平和だから出来ることなんじゃないかなと感じます。友達と意見が異なることもあるけれど、おたがいが伝えたいことを理解し合い、助け合うことで、少しのすれちがいも話し合いなどで解決することが重要です。

私もふくめ、一人一人が少しでも平和のために行動することが大事です。例えば、困っている人がいたら助ける、男女関係なく仲良くする、そして人がきずつくことを言わない・しないことです。これらのささいな行動でも、平和になる大きな一歩となるのです。

私は、小学生でまだ色々なことが分かっていませんが、具体的に平和な世界になるためにもっと自分でも出来ることはないかと考えました。一つ目は、異なる文化や背景を持つ人に理解を深め、敬意をはらって接すること。自分とはちがう意見を受け入れることが平和な社会を作れると思います。二つ目は、地域の活動やボランティアに参加して社会こうけんをすることで周りを助けるということを学ぶこと。周りを助けることで平和をすすめられると思います。三つ目は、世界で起きている環境問題、貧困、紛争や戦争などの問題について調べて理解し、自分が何をすべきか考えること。四つ目は、周りの人と平和について考え話し合うこと。これなら私でも少しずつ取り組めるかなと思いました。

最後に、今回平和について調べたり考えることで大切なことが分かりました。それは、みんなが笑顔で、生きていて楽しいと思えるような世界を目標にしたいと思いました。自分だけではなくみんなと共有しながら、平和を大切にしていきたいと思います。

# 優秀賞

## 平和の大切さ

渋川市立渋川西小学校6年 柳澤 一花

私がなぜこの作文を書こうと思ったかと言うと、学校の読みきかせで広島と長崎におとされた原子爆弾の本を読んでもらい、平和の大切さを知ったからです。その本では、原子爆弾が爆発した、きのこ雲の写真を見せてもらいました。また、原子爆弾の近くにいた人が飛ばされたり、ひふがただれて「熱い、熱い」といい川に飛びこんだりした人もいたそうです。そのつらい状態でも数日、死ねなかったようです。このように原子爆弾でのつらい経験をした国は、世界中でも日本だけです。

日本は一九四一年十二月八日から一九四五年八月十五日まで戦争をしていました。広島、長崎の原子爆弾の投下を受け、日本は八月十四日にポツダム宣言を受け入れました。ポツダム宣言とは、日本が無条件降伏をすることです。それにより戦争が終わり、日本は負けました。しかし、この戦争で日本は大きな代償をおいしました。長崎では死者が七万三千八百八十四人、重軽傷者七万四千九百九人、それは人口の六十二パーセントに当たります。広島では死者十四万人、重軽傷者七万九千三百三十人、それは、人口の六十三パーセントに当たります。この戦争による犠牲者は三百十万人です。しかも一九四四年以降の戦争末期に集中して亡くなっています。

このように、大勢の犠牲者を出した戦争は二度と起こしてはいけないと思います。そして、戦争によって何も得るものはないと思います。こうした大勢の人々の大きな犠牲の上に今の平和があります。私は現在野球をしています。応援するプロ野球チームの巨人軍に、昔沢村栄治という人がいました。彼は投手として百六十キロメートルの球を投げていました。当時としては高速の球を投げていましたが三度の軍隊生活で手榴弾を投げ過ぎてかたをこわしました。乗っていた船がアメリカの潜水艦にうたれて二十七才の若さでこの世を去りました。今でも、野球をやっている人達の間では沢村賞で有名です。私は、野球でピッチャーをやっていますが、一球一球平和をかみしめて投げようと思います。そして、いつまでも野球ができるように今の平和が長く続いてほしいと思います。でも世界はその逆の方向に進んでいるように感じます。二〇二二年、二月二十四日にロシアのウクライナ侵攻が始まりました。戦争はますます激しくなっているように感じます。今、世界のあちこちで起きている戦争が早く終結して、世界中が平和になることを私は願っています。地球は一つしかありません。地球に住む人々がみんな仲良く暮らしていけることを願います。

# 優秀賞

## 私と世界の平和

茨川市立中郷小学校6年 千明 穂香

私は、平和とは、一人一人が自分を大切にでき、相手も認め、大きな争い事がなく日々を送れることだと思う。

だが、今この世界は、平和の一言では表すことができない。

なぜなら、核兵器や武器を持ち、たがいに争い、戦争を起こしている国があるからだ。ニュースやラジオから流れてくる争い。自分が知らないところで起きている争い。でも、私たちに関係ない争いではない。

戦争は、何かのために何かを犠牲にしてしまうもの。犠牲になり、失うものの中に、命がある。だれかの身勝手な欲望のせいで、大切な命を失う人もいる。命は、小さな子どもでも、権力のある大人でも重みはみんな一緒だと思う。そんな大切な命が、身勝手な行動によって、失われる事はあってはいけないこと。私は、絶対に嫌だ。

私のひいおばあちゃんは、今、九十五歳だ。戦争の時代を生きていた。これまで、戦争での体験をたくさんひいおばあちゃんから聞いてきた。戦争を経験し、実際におそろしさ、こわさを肌で感じ、もう二度と戦争を起こしてはいけないということを心から知っている。戦争中は、毎日そわそわして生きている心地がしなかったし、満足するご飯なんて食べられず、いつもお腹を空かせていたという。そんな中で、日々を送ることは、どんなに苦しいことだろう。想像しただけでもこわいし、胸が苦しくなる。生きていてくれたひいおばあちゃんに、感謝の気持ちでいっぱいだ。

もし、ひいおばあちゃんが生きていてくれていなかったら「おじいちゃん、おばあちゃん」そして「お父さん、お母さん」から「私」への命のバトンはつなぐことはできなかった。今、当たり前のように毎日を送り、食事をし、話し合い、笑い合える時間は存在していない。それを心から考えたら、自分がどんなに幸せな環境にいるかが改めて実感できた。

だから、今を生きている人のため、そしてこれから生まれてくる子たちのためにも、戦争をなくしていかなければならない。命のバトンをつなぐために。

みんなが自分の良さ、相手の良さを認め、それを身近なつながり、地域のつながり、国と国のつながり、そして、それが世界全体に広がっていくように、今ここから私から自分の良い所、となりにいる人の良い所を見つけ、認め合っていきたい。

身近な幸せからみんなへと、世界へと広がる平和な世の中につながると信じている。

# 佳作

## 世界平和のために

渋川市立渋川北小学校6年 手計 孝康

今、世界中の人々が、地球の平和について考えることが大切だと思います。

まず、そもそも平和とはなんでしょう？平和とは、世界のすべての人々がふだんの生活ができ、安心して暮らしていけることだと思います。そして、その平和が乱れてしまうと、そこに住む人々は安心して暮らせなくなると考えています。

さて、世界は今、平和なのでしょう。もちろん平和な国や地域もありますが、世界にはそうではない国もいくつかあります。

最もよく知られているのは、ウクライナとロシア間の紛争です。これは、ロシアが軍事組織 NATO の拡大を阻止することを目的に、2022年から本格的に始まった紛争です。

また最近では、ガザ地区の紛争も深刻化しています。これは、ユダヤ教の国家イスラエルと、イスラム教の軍事組織ハマスとの宗教上の対立で起こった紛争です。

他にも、アフリカでは、いろいろな理由で度重なる紛争が起きています。

このように、世界にはいろいろな関係で紛争が起き、人々が安心して暮らせない国があります。

では、日本はどうでしょう。ふだんの生活ができている、そして、安心して暮らせているので、「今は」平和です。

でも、昔はそうではありませんでした。日本は昔、軍国主義をすすめ、他の国とたくさん戦争をして強くなっていきました。しかし、第二次世界大戦のとき、広島と長崎に原子爆弾が落とされて、そのせいで何十万人もの人が亡くなってしまいました。

戦争は敵の攻撃などによって多くの人々が亡くなり、さらに、たとえ戦争に勝ったとしても、戦いによって国や人々がつかれて貧しくなるため、結局戦争をして得する国はありません。つまり、戦争はただ貧しくなるだけのことであり、すべての国の人々がいつも通りの生活をするには「平和」が必要なのです。

その貧しい中で日本の人々は、戦争をきっかけに死に物狂いでがんばって、今の平和な日本を築きあげました。

平和を実現させるために、私たちにできることもあります。たとえば、戦争や平和に関する本や SNS の動画を見ることで、戦争がどれだけひどいことか、平和がどれだけ重要なのかを知ることができます。そして、そのことを友達と話し合い、平和について考える機会を増やすことも大切です。

今、過ごしている当たり前の日常も、平和が乱れるとそれができなくなります。みなさんも平和について考えてみてはどうですか。

# 佳作

## 二度と戦争を起こしてはいけない

渋川市立古巻小学校6年 齋藤 心陽

八月九日十一時、家でテレビを見ていると長崎の街が映り、もくとうの鐘が鳴り響きました。長崎に原子爆弾が落とされた日です。これが、改めて戦争について考えてみようと思うきっかけとなりました。

図書館で借りてきた本「十四歳のヒロシマ」は、一度で読み切れないほど長い本ではありませんでした。けれども、私は何度か本を閉じ、心を落ちつかせながら読み進めました。それほどに、内容は重く、傷ましい戦争の現実を見せつけられるような作品だったのです。文面から、二度と戦争をしてはいけないという著者の思いがひしひしと伝わってきました。

例えば、原爆孤児の生活です。原爆孤児とは、原爆によって家族を失ってしまった子供のことです。原爆孤児たちは、住む場所も、食べるものも、生きることに必要なことも、すべて自分で整え、暮らしていかなければならないのです。まず、お金をかせぐために靴磨きをします。貝を拾って大人に売っている子もいます。落ちているたばこを拾い、燃えていない部分をほぐしてまた紙に巻き付けなおして売っている子もいます。それでも、おいを半分かえるほどしかかせげません。そこで、子供たちは落ちている新聞紙を取り合います。なんと、子供たちは新聞紙を川の水で濡らし、それを「おかゆ」といって食べていたそうです。これにはとてもおどろきました。今の生活をしていると、作り話のように感じました。でも、本当にこんな悲惨なことが起きていて、経験してしまった人もいることが信じられないほどのことでした。

こういった苦しい過去を持ちながら、著者は、証言者としても二度と戦争をしてはいけないと伝え続けています。今の日本には、戦争をしないこと、非核三原則があります。それでも、今、ネットやテレビで戦争について目にします。ロシアとウクライナの争いやイスラエルとガザ地区の衝突などが起きていて、泣いている子供や、けがをした人達も映し出されます。私には、なぜ、暴力で抑え込もうとしてしまうのかが分かりません。それを見るたびに「私はこうなりたくない。」と強く思います。学校でも、SDGs の学習で、戦争や核兵器について学びました。その中で、募金活動や世界で起きていることに関心を持つ、ボランティア活動に参加するといったことが大切だと分かりました。私にも、これから何ができるのかを考え続けていきたいと思います。

# 佳作

## 平和だから幸せ

澁川市立豊秋小学校6年 塚原 凜歩

ぼくが考える平和とは、差別がなく争いや戦争をしないことだと考えています。しかし今、戦争や争いをしている国があります。その国の人々は、平和とはいえません。戦争は、関係のない人々や国を巻き込んで傷つけ、平和な日常をうばっています。ぼくは、戦争を体験していないし、近くに戦争を体験した人もいないので分からないことも多いですが、攻めきをしている人々も、攻めきを受けている人々もどちらもいい気持ちはしないし、何のためなのか分からないので、戦争は絶対にやめた方がいいと思います。

ぼくが住んでいる日本は、今戦争をしていません。でも争いごとはあります。誰かの命をうばってしまったり、言葉で人に攻めきしたりと平和ではないことをニュースで毎日のように目にします。こういうニュースがなくなる本当の平和の国の日本になれるといいのになと思ってます。ぼく自身をふり返ってみると、ぼくも周りの人に対して優しい気持ちを忘れてしまい、平和な日々ではない時があります。弟に対して強く言ってしまう時があったり、友だちや先生に対して乱暴な言葉遣いになってしまう時があります。ぼくが気づいてなくて、周りの人に嫌な気持ちや悲しい気持ちにさせています。平和なのがいいと思っているのに、自分の近くで平和じゃないことに悲しくなりました。ぼくの周りが平和であるためにぼくができることは、家族や友だち、先生など、相手の気持ちを考えることです。何か言う時には、言っても大丈夫か一度考えることが大事だと思いました。そして、自分のことを気をつけることと一緒に、友だちが人を悲しませるようなことをしていたら、声をかけてあげられるようになりたいです。

平和ということは、みんなが幸せになれます。人と違う意見や思いがあることは当たり前なので、伝えることは大切だと思うけど、そこで争いにならないように、人の言葉や意見を受け止められる人になりたいし、そういう人がふえれば、平和が広がっていくと思います。

# 佳作

## 平和な世界になるために

澁川市立中郷小学校6年 高橋 歩夏

私は、生まれてきてから「戦争」という体験をしてきたことがありません。昔、そう祖母が前橋駅の近くに住んでいて、戦争中その場所が焼け野原になっていたという話を聞きました。でも、そんなことが現実にあって身近な人が体験していることが未だに信じられません。

そこで、戦争が何か考えました。戦争とは、うばい合って殺し合うことだと私は思います。殺し合うなんて何もいいことがないです。たくさんの方が苦しい思いをするし、たくさんの方の大切な命が一しゅんにしてなくなってしてしまうからです。

先日、ロシアとウクライナの戦争のテレビを見て衝撃を受けました。一つ目は、ゲーム感覚で軽い気持ちで人を殺してしまうことです。現在の戦争は、昔にはなかったドローンを使っていました。敵に見えないように近づいていき、ドローンに付けた手榴弾をボタン一つでおとして人を確実に殺すのです。インタビューから、最初は人を殺すことに恐怖感を感じていた人でもだんだん恐怖感を感じなくなり「今はゲームですね」と言っていました。その変わってしまった姿を見て、私はゲームの世界と現実の世界の差があまりなくなっているはこわいと思いました。二つ目は、友人が死んでしまった話です。一緒に戦っていた友人が銃撃によって死んでしまったのに、そのとなりでがんばって戦っている人がいました。私だったら、今まで一緒に戦ってきた友人が、死んでしまったのに、それからも自分は戦うなんて絶対無理です。私はそんな苦しみながらも戦っている人たちの気持ちを自分にあてはめて想像しても、想像がつかないです。そして、私まで辛くて悲しい気持ちになります。

私にはどうして戦争をするのか分かりません。なぜなら、その人たち一人一人に家族がいて、大切にしている人がいて、その人のことを大切に思っている人がいるはずで、それなのに戦争をして、そんな簡単に命をうばえるのか理解できないからです。今もし、家族や知り合いが戦争に行くとしたら、義務だとしても絶対いやです。そして、残された人は、自分だって必死に命を守らないといけないし、家族とはなればなれになってしまうかもしれません。そうやって想像するだけでも苦しいのに、それを実際に体験している人が今もいます。だから私は早く戦争を終わらせることが大切だと思っています。

しかし、私の力では戦争を止めることはできません。でも、少しでも戦争のない平和な世界に近づくために私にできることを考えてみました。それは、みんなを笑顔にさせることだと思います。みんなが笑顔になれば、少しずつ平和になっていくかもしれません。それが平和に近づくための第一歩だと思いました。

私にとって平和とは、みんなが笑顔で生活していることです。今も戦争をしている国はあります。だけどその戦争を終わらせるためには、みんな笑顔になる必要があると思います。そして、二度と戦争が起きないような平和な世界になってほしいと私は願っています。



# 佳作

## 「戦争と平和」

渋川市立長尾小学校6年 高田 莉桜

私は、ガラスのうさぎとの出会いは、なぜガラスなのかなと気になったので読んでみました。

ガラスのうさぎとは、床の間にあった大きなガラスのうさぎの置物が、戦争の空しゅうにより半分以上とけてぐにゃぐにゃになってしまいました。それは、敏子さんの父の作品だったそうです。

私が、この作品「ガラスのうさぎ」を読んで心に残ったことが三つあります。

一つ目は、一人ぼっちでも戦争が終わるまでどんなことがあってもがんばって生きようとする敏子さんになみだがあふれてきました。なぜ心に残ったかと言うと、一人ぼっちでもがんばって生きようとしている姿をみて、自分がその立場だったらと考えるだけでとても勇気がいることで、すごい事だと思います。

二つ目は、戦争だけど、一人一人みんな良い人たちなのに、国のために戦争をしている。そんなことを考えると、みんな良い人たちなのになぜ戦争なんかをするんだろう。戦争は、多くの人を命をうばっていると思うとその人の人生を命をうばっていると思うととても胸が痛いです。

三つ目は、火葬場の話です。火葬場とは、人や動物がなくなってしまったときに、体を焼きほねにする所です。私も、ねこちゃんがなくなったときに火葬場に行きました。私は敏子さんの気持ちがよく分かります。あんなに大きかったねこちゃんがほねになってしまうととても小さくなってしまい、とても悲しい気持ちになりました。敏子さんは、一人で火葬場に行ったのでよけいつらかったのだらうと思うととても悲しい気持ちになりました。

私は、「ガラスのうさぎ」の敏子さんも十二さいで、同じ年齢です。もしそれが私だったら一人ぼっちだったら敏子さんのようにがまんできないと思います。まだこんなに小さな子が戦争にまきこまれてくるしい思いをしてたのかと思うととても悲しい気持ちになりました。私は、戦争の経験は、ありません。でも、その戦争のせいで多くの命がうばわれ、そして自分の大切な物がなくなったら家族が死んでしまったり、友達も死んでしまって一人ぼっちになってたらと考えるだけで胸が痛いし、こわいです。戦争だけど一人一人みんなきつと良い人たちで、でも国のために戦うんだと思います。みんな仲よく話し合い、ゆずり合えば戦争にならないのにと私は、今の平和を次の世代の人たちにずっと平和な世界でいてほしいです。なので「あたり前」はすごいことなんだし幸せなんだということをつねに頭にいれて過ごしたいです。

# 佳作

## 平和な未来になるために

渋川市立三原田小学校6年 藤川 明恵

二〇二二年二月。ウクライナとロシアの戦争が始まりました。去年からイスラエルとパレスチナガザ地区の戦争も始まりました。今も、テレビでほぼ毎日のように悲惨なニュースをよく見ます。血だらけで泣いている子供や、産まれたばかりの赤ちゃんを殺されて泣きさげんでいるお父さん。

私はなぜ同じ人間同士が殺しあうのか考えてみました。調べてみたらSDGsの目標十六に「平和と公正をすべての人に」とありました。あらゆる場所で、あらゆる形の暴力と暴力による死を大きく減らすということです。

話し合いで解決できないと暴力で支配しようとする大人達がいる事がとても悲しく怒りがこみあげます。そしていつも被害にあっているのは子供達です。大人が子供を守らないでどうするのかと思います。

どうしたら戦争がなくなるのか。世界中の人々が平和に暮らすことはできるのか。

考えや意見がちがった場合は、相手の話を聞く事が大事だと思います。そして暴力的な言葉ではなく、ていねいに話し合うようにすればいいと思います。お互いに相手を思いやる態度をみせるのも大事だと思います。

私のひいおじいちゃんは日中戦争に出兵したそうです。満州で戦争中に亡くなりました。自分の子供に会えないままでした。なので私のおじいちゃんも、おじいちゃんの妹も父親の事を知らないそうです。ひいおばあちゃんは二人の子供を育てるのにとっても苦労したと聞きました。食べる物もなく、小学校に行く時も敵の飛行機がくるとみんなでかくれていたそうです。今の私達の生活からはとても考えられません。ひいおじいちゃんはそれで幸せだったのかなと思うとつらいです。

戦う事で何を得ることができなのか。同じ地球に住んでいる者同士で殺し合う事で何も良い事は起こらないと思います。今こうしている間も戦争は続いています。私達が夏休みで勉強や遊んでいる時も、同じくらいの子供達は銃を持って戦っていたり逃げたりしている事がとても悲しいです。

これから平和な未来をつくれるように私達ができることはニュースで戦争のことをよく知ること。そしてみんなに伝えて、どうすれば平和になるかみんなで考え、思いやる気持ちを忘れないことだと思います。そして、募金や衣類等、支援していきたいと思います。

# 佳作

## 祖父の話聞いて

渋川市立三原田小学校6年 南雲 晴

三月に祖父母と長崎へ旅行に行きました。長崎市内観光、ハウステンボスにも行って満きつしました。長崎の中か街は、きれいで活気に満ちあふれていました。こんなに活気のある街がもともとは焼け野原だったということがぼくには信じられませんでした。しかし、長崎に原子ばくだんが落とされたのは事実です。戦争に勝つ、負けるという事で大きな差が生まれる事を知りました。例え戦争に勝ったとしても負けた側の国民一人一人に家族がいるかも知れないのになぜ戦争をするのだらうと思います。勝ったとしても、亡くなった人達はもどってきません。始めは、けんや弓矢だった武器も今や一度に大量の人の命をうばう原子ばくだんなどになっているのです。

そして、世界で初めて原子ばくだんが落とされた場所広島県。「ぼくは満員電車で原爆を浴びた」を読んで、被害の重大さを改めて知り辛い気持ちになりました。中でも気になったのが、11才の少年が原ばくを電車の中であびる場面です。「どこかで何かが光った。強い強い光で、ぼくは思わず目をつむった。それから、ものすごい音がした。百個の雷が、一度にすぐそこに落ちたようだった。」

ぼくは、雷の音を聞くとすごくおどろきます。それが百個集まった音というのだから、恐くて想像がつかないけど、考えたくもないくらい恐いです。それほど恐ろしい事を広島の人々は体験していたのです。恐くて恐くてたまらなくなりました。学校の授業で原ばくの事が紹介されていました。その時は、自分が原ばくにあわなくて良かったと思っていましたが、今はその事をより多くの人達に伝える事が大切だと思っています。

ぼくのひいじいさんは、戦時中に長野県で兵隊になる訓練をしていたと、祖父から聞きました。しかし、兵隊になる少し前に戦争が終わったので群馬に帰って来たそうです。ひいじいさんが戦争に行っていないで良かったなど、つくづく思いました。ぼくの住む群馬からもたくさんの若者達が、兵隊として戦争に行ったという事も祖父から聞きました。ひいじいさんはその時、十六、七才だったので何とか戦争に行く事はさけられたようです。でも、そんなひいじいさんは、もうこの世にいません。話を聞いてみたかったです。

今、戦争に行った、戦争の被害にあった人が減少してきているという事を知りました。日本は一度戦争で何千万人という人の命を失っています。そんな恐ろしい戦争を忘れてしまうのは、本当に良いのかと思っています。戦争の話聞いた事のある祖父達から話を聞き、それをこれからの後世にも伝えたいです。それが戦争のない「平和」な時代に生きているぼくたちのすべき事だと信じています。

# 佳作

## 何者でもない自分を大切に

渋川市立橋小学校6年 高梨 あかり

皆さんはこの日本という国にどのようなイメージがありますか。そして、この国が他の国にはない出来事があると知っていますか。また、その出来事をふまえて私達はどのような事ができるのでしょうか。

日本は一九四五年(昭和二十年)八月六日午前八時十五分広島市に原子爆弾が投下され、市民の多くは一瞬のうちに命を落とし、川は死者でうまり、生き残った人々も傷つき、やがて死をむかえる。その出来事を今日も人々に伝え、平和の尊さを伝える。原爆ドームはそのような存在だと思えます。私は今まであまりニュースを見ませんでした。でも、ニュースを見ると、スポーツ、政治などのさまざまな事を知る事ができます。でも、ニュースは良い事もあれば悪い事もあります。SNSでもたった一つの言葉が言葉のナイフとなって、これからまだ続く命を、これから生きる事をあきらめてしまうかもしれません。私は、自分の周りにそのような人がいたら、話を聞くようにしたいです。そして、いつも自分の本当の気持ちを言えない人も、はっきりと自分の意見を言えるような世の中に少しずつなっていっていいなと思えます。私は、このような事も無くなればいいなと思えます。それは、男らしく、女らしくという事です。男に生まれたんだから、女に生まれたんだからこんなふうになりなさい、こうしなさいなどと言われる人がいるかもしれません。その人は、女子だけどズボンやかっこいいものが好きなどの思いがあるでしょう。そう思うのは何か理由があるからです。イメージと違う、それは自分が相手に抱く「イメージ」です。自分のイメージと違って、それを受けとめて、これからも変わらなく接していくのがいいと思えます。これが、唯一日本しかない出来事をふまえて私達ができる事なのではないでしょうか。

私達は誰しも間違える生き物です。完璧な人なんていないし、間違いながら成長していくのです。ただ、これだけは忘れないでほしいです。「言葉は凶器」という言葉を忘れないでほしいです。言葉は人を殺す事も、人を助ける事もできるのです。もう二度と、原子爆弾が投下された時の悲劇をくり返さないよう、起こさせないよう、今できる事をやり、少しでも人を暗闇から救い出せるように、私も、皆さんも、自分の意志と相手の意志どちらも尊重できるようになっていきませんか。

# 佳作

## 後悔するのは誰の欲

茨川市立橋小学校6年 今井 美里

戦争はどんな人が起こすのでしょうか。私は、欲がある人間だと思います。そして、欲がある人間は私たち誰もが当てはまるのではないのでしょうか。言ってしまうと、人生は欲で成り立っています。

食べたいと思う食欲、寝たいと思う睡眠欲、満たされたいと思う性欲、認められたいと思う名誉欲、お金や物がほしいと思う財欲などのように、人間には様々な欲があります。一見、戦争に関係ないように思えますが私は、これが一番の原因だと思うのです。なぜなら、欲は私たちを良い方向にも悪い方向にも導くからです。

例えば、お金がほしいときには仕事をしてお金をかせいだり、いらぬ物を買ったりする場合、詐欺や盗みなど犯罪に手を染めてしまう場合、もしくは「後で絶対返すから。」と誰かに借金をする場合があります。この中で犯罪はもちろん、借金だって戦争が起こる原因の一つになりかねません。スケールを大きくして考えてみてください。○国が□国の大切な物を盗ったら、□国は怒ります。□国は○国に膨大な借金をしているのに、全く返そうとしていなかったら、今度は○国が怒ります。そして、どちらの国もある時我慢ができなくなり、言い争いになって最終的には戦争になります。人と人では罪を認めて償ったり、謝罪をして許してもらったりすることができますが、国と国ではそう簡単にできることはありません。戦争の原因は、宗教だったり民族同士の対立だったり、独裁政権への反対による争いなどのどうしてもゆずれないような理由の戦争の止め方は、私にはまだ分かりません。それでも、土地や資源のうばい合いで起こる戦争は、欲のコントロールが上手く出来れば起こらなくなると私は考えます。大きいことではなくても、みなさんにもプライドはあると思います。プライドを捨てられず、「ごめん。」と言えない人もいます。「ごめん。」という謝罪の気持ちが伝われば、起きなかった戦争もあったかもしれません。たった一言で世界が変わることもあるし、世界を変えることもあります。

みなさんは、自分がまちがった時に謝ることができますか。私は、できる時もあればできない時もあります。もしかしたら、私も戦争を起こす側になってしまうかもしれません。今でも、世界各地で戦争が起こっています。これはとても悲しいことです。みんなが欲を上手くコントロールできるようになれば、悲しむ事や苦しむ事が少しでも減り、誰かの欲のせいで後悔する人はいなくなるのではないのでしょうか。「ごめん。」を言わない未来では戦争は起こり、「ごめん。」が言えた未来では戦争は起こらないと私は考えます。我慢のしすぎは自分が壊れる元凶になってしまうので、欲との付き合いを考えてみませんか。

# 佳作

## 共に築く平和な世界

渋川市立橋小学校6年 渡邊 彩春

みなさんにとって平和とは、どういったことでしょうか。私は戦争や争いがなく、みんなが笑顔で過ごせることだと思います。ニュースで、この国とあの国が戦争していると聞いたことはありますが、実際の映像は心がいたくなるので観たくはありませんでした。しかし、平和がどんなに大事か知るにはこの目で観る必要がある所以我は有名な火垂るの墓を観ることにしました。

まず、主人公の十四歳の清太が体験したのは、太平洋戦争というもので多くの人々が亡くなっている中で爆弾が落ちたり、私はとても悲惨な気持ちになりました。私はアニメの方を観たので、実際にこのようなことが起きたと考えたとき、背中がゾワッとしました。しかもこれが何日も続くと考えると、私だったら生きる気力をなくしてしまうと思います。

次に戦争が起こらないようにするにはどうしたらいいか考えました。国のリーダーや決まった人達が話し合うだけでなく、国民の私達が戦争に関する知識と理解を深めることも大切なんじゃないかと思います。国民は、政府が話した内容に賛成や反対することが出来ます。そこで、私達が正しい判断をすることが出来れば戦争や争いを少しでも防ぐことが出来るのではないのでしょうか。

続いて、日本は世界で唯一の核被爆国なのを知っていますか。広島、長崎に原子爆弾が落とされ、爆心地から2キロメートル以内の建物が壊され、ほとんどの人が亡くなりました。日本は、このようなことが二度とくり返さないように、核兵器を「持たない、作らない、持ち込ませない」という非核三原則をかかげて、核兵器をなくすことをうたったえっせいでいくことも平和な世界にするための取り組みの一つです。他にも、平和な世界にするための取り組みはたくさんあります。その中でも、私達に出来ることが「広める」「伝える」ということだと思います。私は聞いたことはないのですが、戦争語り部活動されている方の話を聞くのもとても大切なことだと思います。他に簡単なのは、火垂るの墓や戦争に関する図書を読むなども、理解を深めるために必要なことだと思います。

最後に、平和はふつうのことではないのです。過去があって今があります。兵士として戦い、命を落としてしまった人、必死になってにげたのに生きれなかった人、被害を受けて散らかった町。このように起きてしまった悲惨な過去をくり返さないように今、やれることを私達が共にやっていかなければなりません。安全で安心な心豊かな生活を次の世代に引き継ぐには私達の手で、私達の強い意思で、平和な世界を保っていくことが出来ます。みんなで平和な世界を築いていきませんか。